

満名川水系河川整備基本方針

平成 22 年 10 月

沖 縄 県

目 次

1. 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針	1
(1) 流域及び河川の概要	1
(2) 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針	3
2. 河川の整備の基本となるべき事項	4
(1) 基本高水並びにその河道及び洪水調節施設への配分に関する事項	4
(2) 主要な地点における計画高水流量に関する事項	4
(3) 主要な地点における計画高水位及び 計画横断形に係わる川幅に関する事項	4
(4) 主要な地点における流水の正常な機能を 維持するため必要な流量に関する事項	4
(参考図)	
満名川水系図	6

1. 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針

(1) 流域及び河川の概要

満名川は、沖縄本島北部の本部町に位置し、その源を八重岳と伊豆味の山中に発し、笹川、佐伊土間川、伊野波川、尻無川、ウナジャラ川の普通河川を合わせつつ、本部町の市街地を西に向かって流下し、東シナ海に注ぐ、流域面積12.14km²、幹川流路延長 4.4kmの二級河川である。

気候は亜熱帯海洋性気候に属し、年平均気温は約22℃、降雨は梅雨期と台風期に集中しており、年平均降水量は約2,100mmである。

満名川流域は、市街地が約1割、農地が約1割、山林・原野が約8割を占める自然豊かな地域である。源流部の八重岳一帯は「嘉津宇岳安和岳八重岳自然保護区」として県の天然記念物に指定されており、優れた自然環境が保たれている。中流部の河川沿いに広がる平地は、かつてヌファーターブク、マンナターブクと呼ばれる美田（ターブク）が広がっていたが、現在はサトウキビ畑への転作や田芋等の栽培が行われている。また、下流部に形成されている市街地は、町役場、小中学校、郵便局等の公共施設が集中する本部町の中心地となっている。

流域の地形は、上流域では南側に名護市との境界をなす八重岳（453.5m）、北側に乙羽岳（275.4m）を中心とする山地が広がっており、中流域及び下流域では谷底低地が形成されている。

流域の地質は、河口部周辺に沖積層がみられるほかは、河川沿いを中心にほとんどが古生代本部層の粘板岩・砂岩・チャート・凝灰岩・緑色岩類及び石灰岩が分布している。また、わずかではあるが新生代の琉球層群の砂礫層がみられる。

源流から運立橋付近までの上流部は、河床の露岩、瀬・淵、転石など変化に富んだ自然豊かな溪流区間となっており、石灰岩地植生のアコウやクロツグ、湿潤な環境を好むアカギやハドノキ等の樹木が河道を覆っている。溪流には、クロヨシノボリ等の魚類が流れの緩やかな所で生息するほか、リュウキュウハグロトンボやオキナワコヤマトンボ等の昆虫類が生息している。また、溪流沿いの湿った地中や転石下等はサカモトサワガニ等の甲殻類の良好な生息場となっている。

運立橋付近から伊野波橋上流（満名取水ポンプ場）までの中流部は、コンクリート護岸が連続する堀込み河道となっている。水際には、シマツユクサ等の湿性植物が生育し、砂礫からなる河床には瀬・淵が形成され、ユゴイ、シマヨシノボリ等の魚類、ツノナガヌマエビ等の甲殻類が生息している。また、河道内に設置された落差工には魚の遡上に配慮した魚道が設置されている。

伊野波橋上流（満名取水ポンプ場）から河口までの下流部は、港町として発展した本部町の中心市街地を流下する感潮区間である。両岸にコンクリート護岸が連続し河川に目立った植生はないが、沿川の植樹帯に植えられたヒカンザクラが人々の心を和ませている。河道内には、ボラやゴマフエダイ等の魚類が見られる。

満名川水系には、1970年代までリュウキュウアユの生息が確認されていたが、河川環境の変化等により現在は生息が確認されていない。

満名川の本格的な治水事業は、昭和47年度から河川改修事業に着手し、河道拡幅や護岸等の整備が進められてきた。昭和48年度より実施計画調査に着手した治水ダム事業については、ダムサイト周辺の地質条件が悪く、ダム建設費が当初計画より大幅に増加することなどから、平成9年度に中止が決定した。

既往の水害については、昭和44年10月4日の台風12号(フロッキー)の影響による豪雨と、3日後の10月7日に名護観測所で108.5mm/hr(466.5mm/24h)を記録した驚異的な豪雨の発生により、10月4日～7日にかけて床上浸水343戸、床下浸水200戸を記録する甚大な被害が発生している。

なお、河川改修の進捗に伴い水害は減少しているものの、当該河川の計画の治水安全度は、未だ確保されていない。

河川水の利用については、沖縄県企業局の取水により沖縄本島の水道用水として利用されている。なお、降水量は季節によって大きく変化し、河川の流況は安定せず、平時の流量は小さい河川環境となっているが、それに伴う問題は発生していない。

河川の水質については、水質汚濁に係る環境基準の水域類型指定は、渡久地橋地点から上流がA類型に指定されている。水質の現状として、平成20年の水質調査結果(BOD75%値)では、渡久地橋地点で0.6mg/l、伊野波川合流地点で0.8mg/lとなっており、両地点ともA類型(BOD2mg/l以下)の環境基準値を満たしている。

河川の利用については、渡久地橋上流右岸の階段護岸の整備のほか、本部小学校付近の河川沿いに連続的に植樹が施されるなど環境整備が行われており、カヌー教室の開催や地元の中学生による河川美化活動等(ゴミ拾い等)が実施され、環境教育の場としての利用が見られる。

(2) 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針

満名川水系^{まんながわ}の課題としては、河川の流下能力の不足による浸水被害の解消、良好な河川環境の整備と保全、川との親しみの場の確保等が挙げられる。

これらを踏まえ、

『人と自然の共生を目指して、洪水から人々を守り、適正な河川利用の下、多くの生物が棲み、子供たちが学び、遊ぶ川』

を基本理念として、川づくりを進めていくものとする。

災害の発生の防止又は軽減に関しては、想定氾濫区域内の資産規模や過去の災害実績等を考慮し、30年に1回程度の降雨で発生する洪水を安全に流下させることを目的として、河道の整備を行うとともに、台風による高潮にも対処する。

これらに加えて、計画規模を上回る洪水に対しても、できるだけ被害を軽減するため、情報伝達体制及び警戒避難体制の整備等、総合的な洪水被害軽減対策を関係機関や地域住民と連携して推進する。

河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関しては、地域住民及び関係機関等との協力のもと、生物の生息・生育環境に配慮するとともに、水質の維持に取り組み、適正かつ効率的な水利用が図られるよう努める。

河川環境の整備と保全に関しては、河川及び流域の特性を十分踏まえ、治水、利水との整合を図りつつ、河川が本来有している生物の生息・生育環境や人と川との関わりに配慮した整備と保全に努める。

上流部は、本島北部を代表するイタジイ林を主体とした樹林が川まで迫る自然豊かな溪流となっていることから、これらの環境の保全に努める。

中流部は、コンクリート護岸が連続するものの、水際はシマツユクサ等の湿性植物が繁茂し、生物の生息環境としては比較的良好なものとなっていることから、これらの環境に配慮した河川空間となるよう努める。

下流部は、感潮域であるとともに人や生物にとって貴重なオープンスペースであることから、生物の生息環境への配慮とともに、自然とのふれあい、やすらぎ、学習の場としての機能にも配慮し、地域と連携して良好な水辺空間の形成に努める。

河川の維持管理に関しては、災害の発生の防止、河川の適正な利用、流水の正常な機能の維持及び河川環境の保全の観点から、河川の有する多面的機能を十分に発揮できるよう適切に対策を行うものとする。

また、河川に関する情報を地域住民と幅広く共有し、防災教育、河川利用に関する安全教育、環境教育等の充実を図るとともに、住民参加による河川清掃、河川愛護活動などを積極的に推進・支援し「みんなで協力しあう川づくり」を目指す。

2. 河川の整備の基本となるべき事項

(1) 基本高水並びにその河道及び洪水調節施設への配分に関する事項

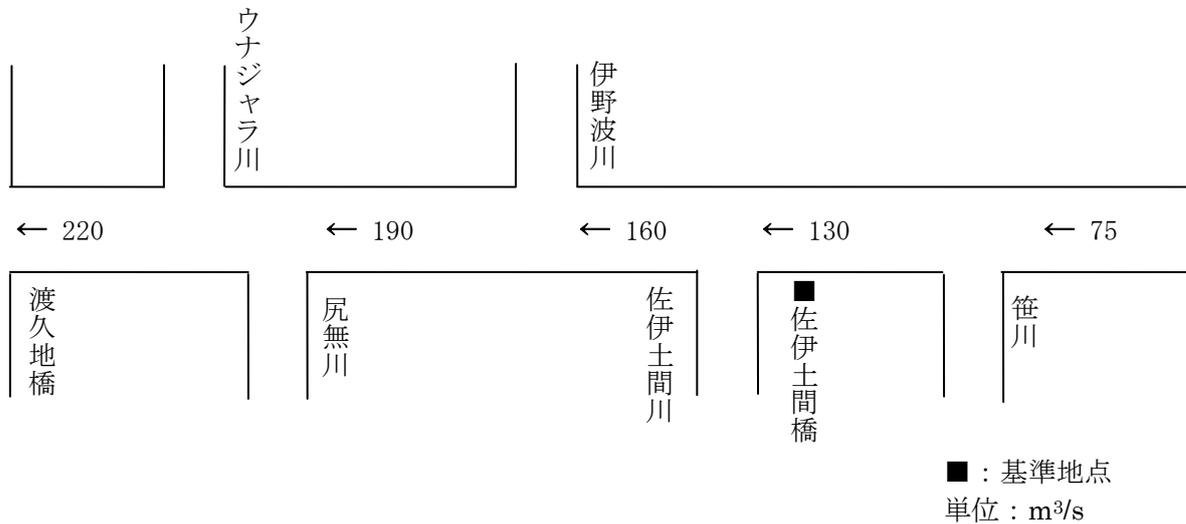
満名川まんながわの基本高水のピーク流量は、30年に1回程度の降雨で発生する洪水について検討した結果、基準地点佐伊土間橋さいどまばしにおいて $130\text{m}^3/\text{s}$ とし、これを河道へ配分する。

基本高水のピーク流量等一覧表

河川名	基準地点	基本高水のピーク流量	洪水調節施設による調節流量	河道への配分流量
満名川 <small>まんながわ</small>	佐伊土間橋 <small>さいどまばし</small>	$130\text{m}^3/\text{s}$	$0\text{m}^3/\text{s}$	$130\text{m}^3/\text{s}$

(2) 主要な地点における計画高水流量に関する事項

満名川まんながわにおける計画高水流量は、基準地点である佐伊土間橋さいどまばしにおいて $130\text{m}^3/\text{s}$ とする。



満名川計画高水流量配分図

(3) 主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る川幅に関する事項

満名川まんながわの主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る概ねの川幅は次表のとおりとする。

主要な地点における計画高水位及び川幅一覧表

河川名	地点名	河口からの距離(km)	計画高水位 N.P. (m)	川幅(m)	適要
満名川 <small>まんながわ</small>	佐伊土間橋 <small>さいどまばし</small>	1.8	5.7	15	基準地点

N.P. : 那覇港中等潮位

(4) 主要な地点における流水の正常な機能を維持するため必要な流量に関する事項

満名川^{まんながわ}における既得水利としては、水道用水として満名取水ポンプ場地点で最大0.27 m³/sがある。

満名川^{まんながわ}の流水の正常な機能を維持するため必要な流量に関しては、流量観測、動植物等の調査を実施し、データの蓄積に努め今後さらに検討を行う。

(参考図) 満名川水系図

